

第6学年・学習プログラム「SDGs 海洋ごみ」

作成：斎藤由美子先生（仙台市立七郷小学校研究主任）、亀崎英治（MELON）

- ◆ 学年 第6学年
- ◆ 教科等 総合的な学習の時間
- ◆ 題材名 「SDGs～海洋ごみを調べよう」
※教科横断的な学習单元『未来の七郷・荒浜まちづくり』の第1時

- ◆ 単元の流れ（仙台市立七郷小学校第6学年総合的な学習の時間・まちづくり）

出会う・気付く	考える	共有する	つなげる
出前授業 SDGs （2030年には寿司が食べられなくなる？） SDGsが身近な課題だと気付く。	国語：世界に向けて意見文を書こう ※共通テーマで書く。 文章構成は教科書の「フェアトレードについて」を参考にする。	意見文の発表会をする。 友達の考えを聞き、相違に気が付く。	総合：未来のまちづくり 持続可能なまちづくりを意識して模型を制作する。 GT:山形大 佐藤教授

- ◆ 目標（第1時）

SDGsと海洋ごみ問題について理解し、今の自分を見つめ直し、これからの自分の生活を考えるきっかけをつくる。

- ◆ 環境出前講話の流れ（第1時：45分授業）

学習活動	学習内容	留意点等
～講師紹介 1. 学習課題と出会う。 ● 2030年のお寿司屋さん	・T1、T2でロールプレイをする。 T1「へい、らっしゃい。何を握りますか？」 T2「大将、マグロ握って。」 T1「すみません。品切れです。」（ひっくり返す） T2「じゃあ、サーモン。」 T1「サーモンも品切れです。」（ひっくり返す） T2「ううん、じゃあ、イクラとエビ、それとイカ！」（三つともひっくり返す）	・資料：寿司ネタのメニューカード


<p>● 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>このままでは、2030年に魚のすしネタがいつも品切れになってしまうのはどうしてか？</p> </div>	<p>T1「どれも…品切れです。」 T2「いったい、何があるんだい？」 T1「あるのは、たまごとカップ巻き（きゅうり）です。」 T2「マグロが食べたかったのに…カップ巻きちょうだい。」 T1「へい、カップ巻きですね。」</p>	
<p>2. 予想を立てる。 今までの学習などを基に考える。</p>	<p>「魚が獲れない。」 「魚を獲り過ぎてしまった。」 「海が環境が悪くなっている。」</p>	
<p>3. 課題を深める。</p> <p>① 獲り過ぎ</p> <p>② 飢餓</p> <p>③ 食品ロス</p> <p>④ 海水温の上昇</p> <p>⑤ 二酸化炭素の増加と酸素の減少</p> <p>⑥ 海洋ごみ</p> <p>● すべてにおいて共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界全体のマグロの4分の1を日本が消費している。 ・ マグロが大好きな日本人。 ・ 回転寿司で安く食べられる。 ・ 世界の人たちの9人に1人が飢餓（食料不足）に苦しんでいる。 ・ 日本でマグロなどの魚を含めた食品が捨てられる量（食品ロス）は、国連の食糧支援の量よりも1.5倍多い。 ・ 陸と同じように海も温度が高くなっている。 ・ 海中の二酸化炭素が増えて、逆に、酸素が減っている。 ・ 沖縄ではサンゴの白化が起きている。魚にも影響が出ている。 ・ 2050年、このままでは魚の量よりも海洋ごみの量の方が多くなってしまふ。 ・ 魚の体内からマイクロプラスチックが出てきた。 ・ マイクロプラスチックがすでに人体にも？ ・ すべて人間の行動が原因だ。 	<p>・ PPT 資料</p>

<p>することは何か。</p>														
<p>4. SDGs と関連させて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SDGs とは何か。 ● 原因を SDGs の目標につなげてみるとどうなるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な開発目標 ・ 「だれ一人取り残さない」 が合い言葉。 ・ 2030 年までに世界全体で解決を目指す 17 の目標。 <table border="1" data-bbox="563 499 1181 1104"> <tr> <td data-bbox="563 499 834 589">① とり過ぎ</td> <td data-bbox="834 499 1181 589">目標 12 「つくる責任 → 獲る責任」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="563 589 834 678">② 飢餓</td> <td data-bbox="834 589 1181 678">目標 2 「飢餓をゼロに」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="563 678 834 768">③ 食品ロス</td> <td data-bbox="834 678 1181 768">目標 12 「使う責任 → 食べる責任」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="563 768 834 857">④ 海水温の上昇</td> <td data-bbox="834 768 1181 857">目標 13 「気候変動に具体的な対策を」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="563 857 834 992">⑤ 二酸化炭素の増加と酸素の減少</td> <td data-bbox="834 857 1181 992">目標 13 「気候変動に具体的な対策を」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="563 992 834 1104">⑥ 海洋ごみ</td> <td data-bbox="834 992 1181 1104">目標 14 「海の豊かさを守ろう」</td> </tr> </table>	① とり過ぎ	目標 12 「つくる責任 → 獲る責任」	② 飢餓	目標 2 「飢餓をゼロに」	③ 食品ロス	目標 12 「使う責任 → 食べる責任」	④ 海水温の上昇	目標 13 「気候変動に具体的な対策を」	⑤ 二酸化炭素の増加と酸素の減少	目標 13 「気候変動に具体的な対策を」	⑥ 海洋ごみ	目標 14 「海の豊かさを守ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ PPT 資料、SDGs ノート (p6) ・ 原因と SDGs の目標のつながりを考えさせる。(ワークシート)
① とり過ぎ	目標 12 「つくる責任 → 獲る責任」													
② 飢餓	目標 2 「飢餓をゼロに」													
③ 食品ロス	目標 12 「使う責任 → 食べる責任」													
④ 海水温の上昇	目標 13 「気候変動に具体的な対策を」													
⑤ 二酸化炭素の増加と酸素の減少	目標 13 「気候変動に具体的な対策を」													
⑥ 海洋ごみ	目標 14 「海の豊かさを守ろう」													
<p>5. 海洋ごみと自分たちの生活とのつながりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 荒浜の海岸に落ちていた海洋ごみの中身を観察する。 ● 学校の近くの公園に落ちていたごみを見てつながりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 割れたプラスチック ・ 細かい発泡スチロール ・ お菓子の包み ・ ゼリーの容器 ・ ロープ、ひも、つり糸 ・ 管のようなもの ・ プラスチックのつぶ ・ 発泡スチロールが細くなったもの ・ 公園に落ちていたプラスチックのごみが細くなって海洋ごみになる。 ・ 公園 → (風) → 用水 → 川 → 海 → 海岸 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PPT 資料、海洋ごみ ・ 海洋ごみを配布し、観察させる。 ・ 七郷 2 号公園に落ちていたごみと比べさせる。(端末で各自データを開く) 												
<p>6. まとめ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語「意見 												

<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs の目標と自分たちの生活とのつながり、解決のための行動を！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 14 以外でも、自分たちの生活とのつながりがないか、解決のために自分はどうな行動を取っていくかを考えていく。 	<p>文を書こう」、総合「未来の七郷まちづくり」につなげていく。</p>
---	--	--------------------------------------

◆ 板書計画

このままでは、2030 年に魚のすしネタがいつも品切れになってしまうのはどうしてか？



とり過ぎ
↓
食品ロス

海水温の上昇
↑
二酸化炭素の増加
↓
酸素の減少
↓
海洋ごみ

すべて人間の行動が原因

エビ	イクラ	イカ	サーモン	マグロ	カツパ卷き	たまご
品切れ	品切れ	品切れ	品切れ	品切れ		

SDGs とは…

- 持続可能な開発目標
- 「だれ一人取り残さない」
- 2030 年までに世界全体で解決をめざす

荒浜の海洋ごみ	公園のごみと比べて
---------	-----------